

## 目標達成計画

作成日: 平成23年2月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践 母体法人理念を共有しているがグループホーム独自の理念をつくりあげ、サービスの実践に活かしていく必要がある。	グループホーム独自の理念を作り、ケアサービスの実践に繋げていく。	全職員で地域密着型サービスの意義を確認し、法人理念を活用しつつ、グループホーム独自の理念を作り上げる。	3ヶ月
2	4	市町村との連携 地域への認知症予防教室の開催などグループホームの機能還元をしていくことが、今後必要である。	地域に向けての認知症予防教室を開催する。	キャラバンメイト養成研修にグループホーム職員3名受講し、この職員が中心になり地域への認知症予防教室を開催する。	6ヶ月
3	13	災害対策 2ユニット1人夜勤体制のため、実践的な夜間想定非難訓練が必要。	実践的な夜間想定非難訓練を実施し、ご利用者・職員の安全と不安解消を図る。	この1年間で、夜勤帯で心配になったことを事例としてあげ、何パターンかを想定し実践的な非難訓練を実施する。	3ヶ月
4	15	食事を楽しむことのできる支援 ご利用者と職員が同じ食卓を囲み同じ物を楽しんで食する雰囲気作りが課題として残っている。	ご利用者と職員が同じ食卓で同じモノを楽しんで食する環境を作る。	ご利用者と一緒に楽しい食事を摂取できるよう職員側の環境を整備していく。	6ヶ月
5	18	日常的な外出支援 地域に散歩ボランティア等呼びかけご利用者の楽しみや喜びに繋げる支援が必要。	ボランティアを活用しご利用者の楽しみや喜びを引き出していく。	市の福祉だより等の広報を活用しボランティアのお願いをしていき、幅広い受け入れ体制を整える。	6ヶ月
6	12	重度化や終末期に向けた方針 医療関係者との連携体制を強化し今後ホームでの看取り体制をできる環境整備が課題として残っている。	医療との連携強化を図る	地域性もあり、難しい課題であるが母体法人、協力医、市と協議を続けていく中で、模索を続けていく。それまでの間は、ご本人・ご家族に納得のいく形で、現状のグループホームで「できること」「できないこと」の説明を丁寧にしていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

## 目標達成計画

作成日: 平成23年2月1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践 母体法人理念を共有しているがグループホーム独自の理念をつくりあげ、サービスの実践に活かしていく必要がある。	グループホーム独自の理念を作り、ケアサービスの実践に繋げていく。	全職員で地域密着型サービスの意義を確認し、法人理念を活用しつつ、グループホーム独自の理念を作り上げる。	3ヶ月
2	4	市町村との連携 地域への認知症予防教室の開催などグループホームの機能還元をしていくことが、今後必要である。	地域に向けての認知症予防教室を開催する。	キャラバンメイト養成研修にグループホーム職員3名受講し、この職員が中心になり地域への認知症予防教室を開催する。	6ヶ月
3	13	災害対策 2ユニット1人夜勤体制のため、実践的な夜間想定非難訓練が必要。	実践的な夜間想定非難訓練を実施し、ご利用者・職員の安全と不安解消を図る。	この1年間で、夜勤帯で心配になったことを事例としてあげ、何パターンかを想定し実践的な非難訓練を実施する。	3ヶ月
4	15	食事を楽しむことのできる支援 ご利用者と職員が同じ食卓を囲み同じ物を楽しんで食する雰囲気作りが課題として残っている。	ご利用者と職員が同じ食卓で同じモノを楽しんで食する環境を作る。	ご利用者と一緒に楽しい食事を摂取できるよう職員側の環境を整備していく。	6ヶ月
5	18	日常的な外出支援 地域に散歩ボランティア等呼びかけご利用者の楽しみや喜びに繋げる支援が必要。	ボランティアを活用しご利用者の楽しみや喜びを引き出していく。	市の福祉だより等の広報を活用しボランティアのお願いをしていき、幅広い受け入れ体制を整える。	6ヶ月
6	12	重度化や終末期に向けた方針 医療関係者との連携体制を強化し今後ホームでの看取り体制をできる環境整備が課題として残っている。	医療との連携強化を図る	地域性もあり、難しい課題であるが母体法人、協力医、市と協議を続けていく中で、模索を続けていく。それまでの間は、ご本人・ご家族に納得のいく形で、現状のグループホームで「できること」「できないこと」の説明を丁寧にしていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。